



むらかみゆうじ せんせい
村上裕二《先生といっしょに》

に ほん が
日本画は
どうやって
えが
描くの？

に ほん が ざい ぎ ほう
日本画材・技法について

に ほん が えが かた
日本画の描き方

- 紙や絹の上にドーサびきをして、にじみを防ぎます。
- 下図を墨などで描きます。(再興院展出品など、大きな作品は1/10の小下図を制作します。)
- 下図を本紙に転写します。
- 絵具または胡粉などを膠で溶いて、ムラなく塗ることができる刷毛で背景を塗ります。
- 画面の中にやわらかい雰囲気を出すために、刷毛を使って全体をぼかすこともあります。
- 個々のモチーフに何回か絵具を塗り重ねてゆきます。
- 線描筆は穂先が長いのが特徴で均一な細い線が描きやすく、菊の花びらの1本1本や葉脈を描く際に使います。



Point

はな いっぽんいっぽん
花びらは一本一本
ごふん も あ
胡粉を盛り上げる
えが
ように描く。

Point

は いち どしたぬり
葉は一度下塗りして
かわ あか いんい
乾いたら陰影をつけ
おくゆき
奥行をつける。

Point

くき すじ い
茎には筋を入れ、
くき あか
茎は明るく
つよ えが
強く描く。

さんこうぶんけん に ほん が ぎょうこう ざい はな えが
参考文献：『日本画技法講座花を描く』日本放送出版協会

さいとうみつあき さが ぎく
齋藤満米《嵯峨菊》
さいこうだい かい いんてん すろく りょうし え
『再興第108回 院展』(図録) 表紙絵

再興第108回 院展

2024年3月30日(土)～4月21日(日)
そごう美術館 [横浜駅東口 そごう横浜店6階]
郵便番号 220-8510 横浜市西区高島2-18-1
電話 045(465)5515(美術館直通)

<https://www.sogo-seibu.jp/common/museum/>
X(旧Twitter) : @sogomuseum

[デザイン] tabby design
[編集・発行] そごう美術館 2024年3月

そごう美術館
公式サイト



日本美術院とは

横浜出身の岡倉天心が中心となって1898(明治31)年に創立しました。この団体は、西洋美術のよいところと東洋の伝統を合わせて、自分たちの時代に合った新しい日本画を生み出すことを目的としています。おたがいを仲間とし学びあいながら、絵を自由に研究する心を大切にして、今も多くの画家たちが日本美術院のひろく「院展」への入選をめざしています。

日本画とは

日本で古くからつたわる絵画のこと。明治時代に入ってきた「西洋画」に対して「日本画」という名前がつけられました。日本画は顔料に膠と水を溶かして絵具を作りながら描くため、紙や布、木、土などいろいろなものに描くことができます。そのため、屏風や巻物、板絵や壁画などさまざまな用途や様式で使われてきました。

日本画を描くときに用意するもの

- 1 筆 2 墨 3 水、湯 4 膠 5 和紙・絹 6 絵具

1 筆

羊、たぬぎ、いたち、鹿、馬、猫などの動物の毛を束ねて作られています。

線描筆

主に線を引くために使います。



彩色筆

色を塗る時に使用します。



連筆

複数の彩色筆を連ねて刷毛のようにした筆。広い面を塗る時に使います。



平筆

広い面を平らに塗ることができます。



絵刷毛

一番広い面を塗るのに使います。



がぞう おさしの びじゅつだいがくつうしんきょういこう かい
画像:武蔵野美術大学通信教育課程

2 墨

墨は油や松を燃やして採取した煤を膠と香料で練り固めて乾燥させたもので、水とともに硯ですりおろしたものを色材として用います。油煙墨・松煙墨といった墨があり、それぞれ色味が異なります。

3 水、湯

絵具や膠を溶くのに使います。

4 膠

絵具を紙や絹につけるための接着剤です。動物の骨や皮、腸、腱を煮出してできるゼリーのようなものを固めて乾燥させ作ります。今

は主に牛が原料ですが、昔は鹿が多く使われていました。一晩水につけて、やわらかくしたものを湯煎にかけて液体にしてから使います。



にかわ 膠をとかしているところ
画像:『はじめまして、日本画。』
(日本美術院)

ドーナサ引き

ドーナサは膠水に明礬を混ぜて溶かした液体です。紙や絹などの支持体にひくことで墨や絵具のにじみ止めになります。



みょうばん 明礬

5 和紙・絹

和紙や絹を使います。昔は絹に描くことが多かったのですが、今は紙を使う方が一般的です。和紙は厚さもいろいろで、日本各地でさまざまな種類の和紙が手漉きなどにより生産されています。絹は糸密度が均等で、薄くて張りがあるので、ぼかしや裏から彩色することができます。

6 絵具

日本画で使う絵具は、「岩絵具」といいます。天然の宝石のような鉱石を砕いて、砂のようにして接着剤の「膠」と混ぜて絵具にします。岩絵具には粒の荒い順に番号がついて、粒が荒いほど色が濃く、細かいと薄くなります。同じ名前前の絵具でも粒の大きさで雰囲気が変わって見えます。